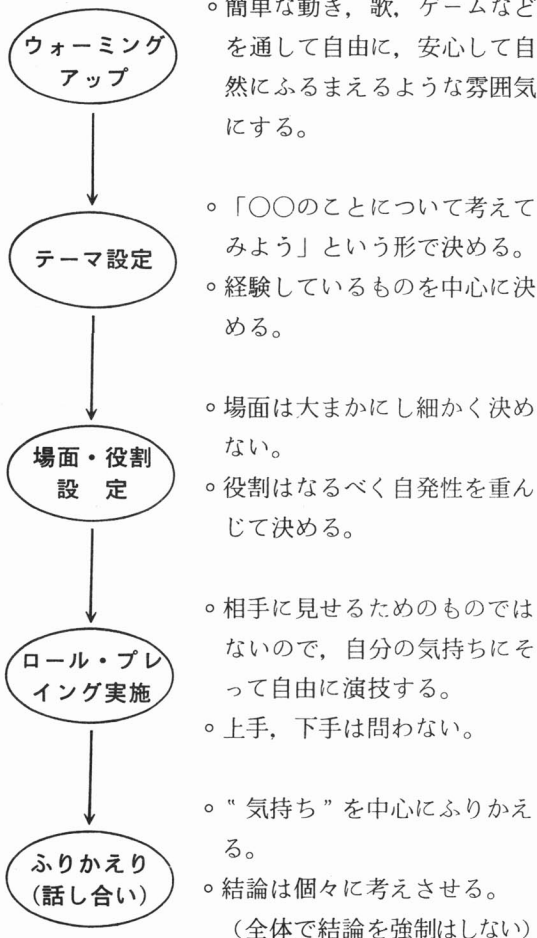


3. ロール・プレイングの順序は

リーダー（監督）を中心に次の順序を進めます。



- 簡単な動き，歌，ゲームなどを通して自由に，安心して自然にふるまえるような雰囲気にする。
- 「○○のことについて考えてみよう」という形で決める。
- 経験しているものを中心に決める。
- 場面は大まかにし細かく決めない。
- 役割はなるべく自発性を重んじて決める。
- 相手に見せるためのものではないので，自分の気持ちにそって自由に演技する。
- 上手，下手は問わない。
- “気持ち”を中心にふりかえる。
- 結論は個々に考えさせる。
(全体で結論を強制はしない)

4. 具体的な活用場面は

- (1) 子供への接し方の練習
 - カウンセリングの練習……話し方，聴き方
 - 効果的な説明や授業の仕方の練習
 - 問題行動への対処の仕方の練習など
- (2) 子供の対人関係における基本的な技能や動作の習得
 - 入学や就職試験の模擬面接，避難訓練など
- (3) 子供間の望ましい人間関係の育成
 - いじめや校則違反の防止や解決など

5. ロール・プレイングの活用事例

《事例・1》 小学校5年生

趣旨 —— 自分や相手の気持ちへの気づきを図り，望ましい友だちとのかかわりを考えさせる。

ウォーミングアップ（教室の前面を広く使って）

- みんなで楽しく歌をうたった。
- じゃんけんゲームをした。（あっち向いてホイ）

—— 雰囲気がなごやかになった後 ——

テーマ・場面の設定

「いやなことを言ったり，言われたりした時の気持ちを考えてみよう。」



ソフトボールの試合場面

役割の決定

- ソフトボールの苦手な子の役
- ソフトボールの得意な子の役

ロール・プレイングの実施

——『得意な子の役』『苦手な子の役』——

「ツーアウト 二・三塁」

「逆転だよ。！」

ロ「よくみていけよ。！」

ル (空ぶり)

「あんなのふってんだ……」

プ「もう……」 『今度こそ。！』

レ (空ぶり)

イ「なにみてんだよ。！」

ン (荒々しく) (空ぶり)

ゲ

① 「期待はしてなかったけどなあ……」

「三球三振ではなあ……」

「ちえっ……」